

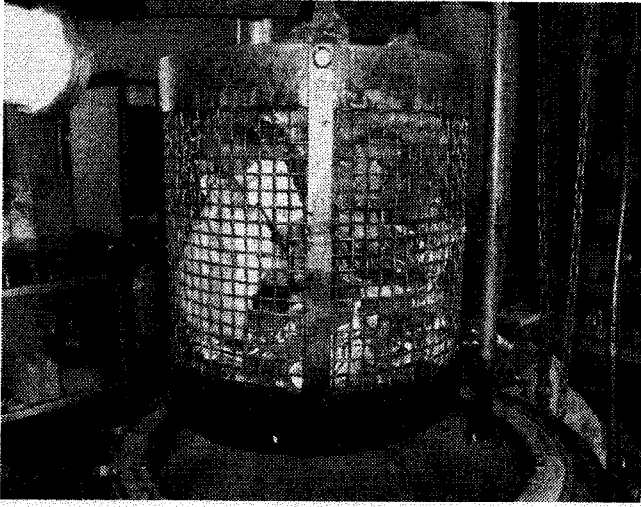
プラスチック・紙・容器包装

容リプラ・残さのR技術開発

アルミや油の回収可能に

アースリサイクル

環境機器の開発・設
計、コンサルティンク
業務を手掛けるアース
リサイクル(兵庫県太



装置への原料投入



回収された高品質油

し、容リプラとその残
さから油やアルミなど
を回収、資源として活
用できることを確認し
た。これまで焼却・埋
立されてきた処理困難
物のリサイクルにつな
がるとして、提携企業
を募っていく。

同社が開発した複合
材分離装置は、廃プラ
スチック複合素材を化
学的に分離、各原料ご
とに回収できるもの。
今回の実証試験では、
下」を大きく下回り、
容リプラ
13㎍、残
さは21㎍
となつ
た。容リ
残さから
回収でき
た熱分解
油の収率

は約40wt%で、ボイ
ラー燃料や発電機燃料
として使用できる。
また、さらに厳しい
条件を想定し、自治体
提供の容リプラに塩
ビ、塩化ビニリテンを
50wt%分加え、同じ
方法で処理した場合、
熱分解油の全塩素濃度
は53㎍となり、「今ま
で油化不適物であった
PET、PVCが無制
限に混入しても対応で
きる事が分かった」と
している。

複合材分離装置は、
処理物を加熱した溶剤
に浸して分離処理を行
うが、溶剤も廃棄物由
来であることが最大の
強みであるという。接
触時間と温度を変化さ
せるのみで油化不適物
を分離可能で、処理対
象はCFRP、GFR
P、占着、X線フィル
ム等幅広い。
立花社長は、「容リ
残さにはアルミ複合
材、PET、塩ビが含
まれているため大半が
埋立処理されている
が、同技術で処理する
とアルミ、油が資源と
して有効活用できる。
同技術に興味を持つ自
治体、産廃業者や装置
メーカーなどの企業と
提携し、実用化を目指
していく」と話してい
る。

法適用免れるため
買い取り

注目の技術

油の収率